



# わらべうたあそびを通じた人権保育

わらべうたの会 堀口 眞奈美 さん

人権保育専門講座1では、堀口眞奈美さんに「わらべうたあそびを通じた人権保育」と題してご講演をいただきました。ご講演では、専門分野である「わらべうた」の活動や体験を通して感じてきた子どもを取り巻く人権課題や取組について、お話しいただきました。

堀口先生は、わらべうたを紹介するときには、若い親や子どもたちが過ごす地域に伝わるわらべうたを集め、一つひとつ実演を交えながらわらべうたの楽しさを伝え続けています。地域に伝承されるわらべうたは、専門家が書物や音源、映像にしており、図書館で見ることができます。堀口さんは、それらの「地元のわらべうた」や「地域固有のわらべうた」を大事にし、わらべうたの普及に取り組まれています。



## (紹介していただいたわらべうた)

そうめん にゅうめん ひやそうめん  
かきがらちょうの ぶたやの おつねさんが  
ちんび ちんび ちんび ちんび  
だいこんおろし だいこんおろし だいこんおろし だいこんおろし  
みせですか? おくですか?



## 堀口さんからのメッセージ

わらべうたを歌いながら、子どもを抱っこしたり、膝に乗せたりして歌に合わせて、スキンシップを取っていきます。子どもたちは、大人から近距離で、話しかけられたり、歌いかけられたり、触られたりすることで心身を健康に保つことができるのです。

保育士さんたちは、気になる子に対して、叱ることが多くなったり、どうすればよいのかと悩んだりしていると聞きます。わらべうたを歌いながら、みんなで同じように遊ぶのではなく、保育士のそばにいたら安心できる子とは、手をつなぎながら歌います。リズムをとるのが苦手な子には、簡単なところだけ参加させます。子どもたち一人ひとりに合わせて遊ぶことで、トラブルは少なくなっていきます。また、子どもたちは、わらべうたをうたって、簡単な手遊びをすることで、「できた」と感じたり、保育士や友達から称賛されたりして自信を持ち、次の遊びをやってみようという気持ちになります。

## 【参加者のアンケートより】

- 幼児だからといって、難しいものを求めるのではなく、簡単なものを通して、自分たちでできたという経験から、自信へと繋げていけるわらべうたの素晴らしさを学ばせていただきました。私自身歌が大好きなので、心地よい時間でした。「歌をうたって楽しめる子」を増やしていけるように、職場でも共有したいと思います。
- 数多くのわらべうたあそびを教えていただき、わらべうたあそびで身体に触れる部分には、たくさんのツボがあり、身体を触ることで身体が元気になる・心も満たされ、喜ぶなど、子どもの発達において大切なことと、学ぶことができました。わらべうたあそびは乳児や幼児などで、アレンジを加えることで幅広く遊びを楽しむことができることも改めて知ることができたため、保育する中で一人ひとりとのかわりから数人とのかわりにおいてわらべうたあそびをして遊んでいきたいと思えます。

